

減災連携研究センターシンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、6月27日(金)、減災館1階減災ホールにおいて、第3回減災連携研究センターシンポジウム「防災・災害研究者の学術的・社会的役割」を開催しました。

当日は、約80名が出席し、野田利弘同センター副センター長の司会のもと、最初に、福和同センター長からあい



基調講演の様子

さつがあり、引き続き、センターの概要及び今年3月に竣工した減災館の紹介が行われました。その後、和泉正哲東北大学名誉教授による基調講演、「広い意味での災害と防災」が行われました。和泉名誉教授からは、災害への備えとしては、災害をよく知り自らをよく知ること、目先だけでなく先の先まで自ら考えることが重要との説明がありました。

続いて、武村雅之同センター寄附研究部門教授をコーディネーターとして、鷲谷 威同センター教授、金田義行同センター特任教授、新井伸夫同センター特任教授、護 雅史同センター特任教授の4名によるパネルディスカッションが行われました。現在、同センターが取り組んでいるプロジェクトと減災館を通じた人材育成についての紹介の後、同センターの今後の学術的・社会的役割はどのようにあるべきか、会場を交えて様々な立場から活発な議論が行われました。最後に、曾根好徳同センター副センター長から閉会のあいさつがありました。

イスタンブール工科大学と学術交換及び協力に関する覚書調印式を挙

●リーディング大学院推進機構

リーディング大学院推進機構は、6月20日(金)、トルコ共和国 イスタンブール工科大学本部において、イスタンブール工科大学との学術交換及び協力に関する覚書の調印式を挙



調印式の様子(左が山本理事、右がメフメト総長)

し、世界でも3番目に古い技術系大学です。

今回は、博士課程教育リーディングプログラム「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」におけるカリキュラムの一環として、修士2年次にプログラム学生・関連教員を中心に企画・運営する予定の「サマースクール」をイスタンブール工科大学と共同で開催するにあたって、両大学間で学術交換及び協力を円滑に推進することの必要性があり、本覚書締結をするに至りました。

調印式において、同プログラム責任者である山本理事は両大学の交流促進の教育的意義を強調した上で、今後の協力や連携を要請しました。メフメト・カラカ イスタンブール工科大学総長は、イスタンブール工科大学の歴史や現在の状況を紹介した後、今後の研究交流の発展に対する期待を述べました。これまでも両大学の教員間では、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の国際プロジェクトや日本学術振興会(JSPS)の組織的な若手派遣プログラムにおいて協力関係を築いてきましたが、本覚書の調印を契機に大学院生や研究員の人材交流、共同研究など多様に発展していくことが期待されます。